

阿蘇くじゅう国立公園 長者原ビジターセンターからお届けする

くじゅうだより

TAKE
FREE!

特集 春の花・ スプリングエフェメラルの世界

2022 春号

表紙写真: 春を告げるイチリシソウ
(2019年4月撮影)

くじゅうファンクラブ活動情報

*平成28年5月31日から、「くじゅう地区管理運営協議会」の通称名称が、「くじゅうファンクラブ」となりました。

皆さまのご支援で、
こんな活動をしています。

教育・
普及啓発

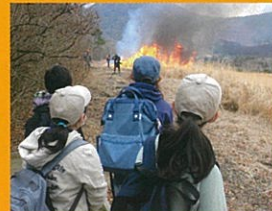
自然環境
保全・調査

登山道等
維持管理

チームタデ原 野焼き見学！

3月13日、タデ原湿原で行われた野焼きの見学をチームタデ原で行いました。今年は地元の方に昔から野焼きの火を入れる際に唱える「蛇もわくども逃げなされ…」という口承を披露して頂きました。これは「蛇も蛙も言葉は通じないが野焼きの火を入れるから逃げなさい」という意味です。くじゅうの野焼きは自然への畏敬の念を忘れず、自然の声を聴きながらに行われてきたという話にメンバーも聞き入っていました。

風の強い日でしたが、野焼きの迫力にくじゅうの自然を守る人々の思いをメンバーそれぞれが感じ、自ら進んでタデ原のゴミ拾いなどを行いました。



くじゅうファンクラブ正会員団体の活動助成・支援を行っています

くじゅうファンクラブでは、くじゅう地域をフィールドに自然保護活動や登山道整備活動などを実施する正会員団体に対して、活動助成・支援を行っています。今年度実施した助成事業は、NPO法人くじゅうネイチャーガイドクラブによる「指山登山道整備活動」、NPO法人久住高原みちくさ案内人倶楽部による「竹田市ヤマザクラの森 橋の架け替え作業」の2件です。指山の登山道整備活動では、山頂帯の道迷いや踏み荒らしを防ぐために、登山道の草刈り作業や、滑り易い場所の土留め作業を実施しました。以前に比べて、だいぶ歩きやすくなったと思います。また、ヤマザクラの森では、沢にかかっている老朽化した橋の架け替え作業を実施しました。くじゅう連山の登山道は、地域の団体の皆様とそれを支援して下さる皆様の手によって支えられています！



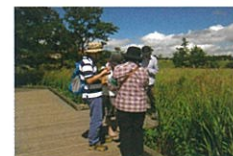
阿蘇くじゅう国立公園・タデ原レクチャー ＜参加費無料／要予約（団体向け）＞

学校などの団体向けプログラム。国立公園の概要やタデ原湿原についてなどのレクチャーを15分～30分程度で行います。お気軽にご相談ください。



タデ原の自然観察会 ＜参加費無料／事前申込不要（個人の場合）＞

九重の自然を守る会のボランティアガイドによる人気のイベント。毎週日曜・祝日10:00～12:00に開催しています。参加希望の方は10時までに、直接ビジターセンターへお越しください。団体での申し込みの場合は事前にご相談ください。



(注) 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、行事を中止することがあります。開催状況につきましては、随時お問い合わせください。また当日の検温へのご協力とマスクの着用をお願いいたします。

くじゅうだより2022春号

発行元：くじゅうファンクラブ
(くじゅう地区管理運営協議会)
879-4911 大分県玖珠郡九重町大字田野255-33
長者原ビジターセンター
TEL & FAX 0973-79-2154

くじゅうファンクラブホームページ：
<http://kujufanclub.com/>

★くじゅうの最新の自然情報
などはフェイスブックで！
<https://ja-jp.facebook.com/choujabaruvisitor/>

★活動報告やくじゅうの基本情報
などはくじゅうファンクラブ
ホームページで！
<http://kujufanclub.com/>



リレー式 職員からのひとこと

今年のタデ原の野焼きは、3年ぶりに3月中に行われました。タデ原のある飯田高原では雪が残ることがあり、3月からやっと野焼きができます。しかし3月は天気が変わりやすく、毎回もどかしい思いです。今年も風が強くて開催が危ぶまれましたが、関係の皆さんの努力でなんとか実施できました。さて春です！4月に入ると野焼き後の黒い大地でリュウキンカ・サクラソウなどの花が咲き始めます。山菜も楽しい時期です。新しい季節、心機一転頑張ります！(種村)

くじゅう連山の山麓の各所で野焼きが行われています！

3月から4月にかけて、くじゅう一帯で野焼きがおこなわれます。3月5日には竹田市沢水キャンプ場周辺、12日には坊ガツル、13日には九重町の泉水山、タデ原湿原でおこなわれました。野焼きは、灌木が生い茂らないように枯れた草木に火をつけて焼き払う、草原を維持する大切な活動です。もともと畜産農家の牛馬の餌場の確保などのために行われてきたものですが、現在では草原にしか生息しない生きものの棲みかを守り、くじゅうの歴史的な景観を保つ意味でも、野焼きを継続していくことが求められています。風が強い日もありましたが、地元の消防団や多くのボランティアの方々が参加し、今年も無事に終えることができています。

くじゅうファンクラブでは皆様からいただいた会費やご寄付を、野焼き時の消火活動道具の購入・貸与や参加者へのお茶の配布等に利用させていただいております！皆様のご支援に深く感謝いたします。



道標の設置／道迷い遭難の防止のために

くじゅうファンクラブでは皆様からのご支援を利用して、今年度も遭難対策の一環として、くじゅう連山の道標を3基制作しました。場所は次の通りです。①諏峨守越分岐(長者原・大曲⇄三俣山⇄北千里・法華院)～古い老朽化した看板と交換しました。②法華院前分岐(鉢立峠⇄北千里・諏峨守越⇄長者原・吉部)～令和2年7月の土石流で流されていきました。③通称かぼちゃ道合流点(坊ガツル⇄大戸越)～平治岳に行く途中の道迷いの多いところです。新規道標は国際化対応としてローマ字併記しています。これらの道標は昨年秋から今年3月にかけて順次設置されました。

大分県警の公表している資料によると、遭難の原因の半数は、道迷いと転倒によるものです。道に迷った方に聞くと、道標がある場所でも「見落とし・目に入らなかった」ということがよくあります。地図(または地図アプリ)を持って、「このあたりに分岐があるはず」と思って歩けば、見落としは減らず、歩くルートを確認し、安全な楽しい登山になるように心掛けましょう。



くじゅうファンクラブでは、上記のような教育普及・啓発活動、自然環境保全・調査活動、登山道等管理活動を実施しています。活動に賛同してくださる賛助会員(個人一口3,000円/年、団体一口10,000円/年)や寄付を募集しています。賛助会員の方には、会員証の発行のほか、缶バッジのプレゼント・お便りの送付などの特典を用意しています。詳しくはくじゅうファンクラブホームページ(左端にQRコード記載)をご覧ください。

長者原ビジターセンターへは



長者原ビジターセンターまで車で、 由布院から40分/九重ICから30分



春の花・スプリングエフェメラルの世界

The Secrets of Spring Ephemerals



イチリンソウ、ユキワリイチゲ、フクジュソウ・・・これらの花の名前から、何を思い浮かべますか？ 長い冬が終わったあとの春の訪れを感じないでしょうか？

これらは、早春から春に花をつけ、真夏には葉が枯れて眠ってしまう植物たち。「春植物」とか「スプリング・エフェメラル」と呼ばれます。

この花たちの本来の生育場所は、明るい落葉樹の林の中や周辺。森の明るい春のうちに花を咲かせて葉を広げ、次の年まで地面の下で眠ります。夏に探しても見つからないんです。

くじゅうや阿蘇のような、野焼きや放牧がこなされるススキの草原でも、同じような暮らしをする花が咲きます。

春の花たちの世界をのぞいてみましょう！

エフェメラルってなに？

エフェメラルとは、英語で、「長続きしないもの、はかないもの」といった意味です。春に現れてすぐに消えてしまう春植物をさします。

なんで消えてしまうの？

植物が成長するためには温度・水・光が必要です。落葉する森の中では、光がいちばんあたるのは、木々が葉を広げる前の早春。逆に真夏の森は暗くて厳しい環境なのです。明るい春の光を存分に浴びて、暗い夏に頑張るのはやめようという「作戦」なのでしょう。

どんな特徴があるの？

暖かくなったらすぐに葉を広げて花を咲かせられるよう、タネではなく球根や地下茎で冬を越す多年草です。まだ他の草花が小さくて、競争しなくてもいいので、草丈は低くてかまいません。

春に咲けばみんな「春植物」なの？

サクラも春に咲きますが、春植物とはいいません。夏から秋までずっと葉を広げて、活動を続けているからです。

シロバナネコメソウ

名水百選に選ばれている男池。夏のキツネノカミソリや秋の紅葉も人気ですが、実は早春の花のスポットでもあるんです。男池橋を渡ると、ユキワリイチゲやシロバナネコメソウ、オオチャルメルソウ、サバノオなどのかわいい花が迎えてくれます。フクジュソウの黄色い花も見つかるかも。かくし水まで片道40分程度、芽吹き始めた森を歩くトレッキングです。

サバノオ

フクジュソウ

ユキワリイチゲ

ハルトラノオ

エヒメアヤメ

エゾエンゴサク

シロボウエンゴサク

ハルリンドウ

リュウキンカ

サクラソウ

ツクシヨウジョウバカマ

ユキザサ

イチリンソウ

スマレ

タチツボスマレ

野焼きのあとのタデ原は、5月の連休にかけてたくさんの花が咲きます。サクラソウやリュウキンカなどは、どこでも見られるものではないとても貴重な植物。「やや湿った草原」という特殊な環境がこれらの春の花を守り育みました。他にもハルリンドウ、ミツバツチグリ、ウマノアシガタ、サワオグルマなど、秋まで花が途切れることがあります。

アクセス 長者原ビジターセンター周辺の駐車場にとめれば、タデ原は目の前です。豊後中村駅や由布院駅からバスもあります。

アクセス やまなみハイウェイの飯田高原交差点から県道621号を約15分。駐車場・トイレあり。入口で清掃協力金100円が必要です。



~~春の花に会いにいこう~~

くじゅう周辺では、特別な場所に行かなくても、ふつうにドライブしたり歩いたりするだけでたくさんの春の花に出会えます。田畑のまわりではイチリンソウ、ユキワリイチゲ、アマナ、スマレなど、明るい森にはユキザサ、チゴユリ、ツクシヨウジョウバカマなど。人間の何気ない暮らしが、これらの花々を咲かせてきたのでしょう。

アクセス 登山道や歩道を歩き、私有地への立ち入りはご遠慮ください。

一番水登山口は、鉾立峠や坊ガツルへの昔からの入り口。丸木橋で川を渡ると、アブラチャンの薄黄色の花が咲く森に入ります。林床にはエゾエンゴサク、ジロボウエンゴサク、マルバスマレなど。近くの草原にはキスマレなどの花も。コクサギの群生を通り抜けて30分、ヤマザクラの森まで歩けば絶景が広がりますよ！

アクセス ぐるっとくじゅう周遊道路でレゾネイトクラブくじゅうを目指します。駐車場はレゾネイト第3駐車場(無料)を利用してください。立ち寄り湯(600円)はレゾネイトにお問い合わせを。

スミレも春の花ですが、これも正確には春植物に含まれません。多くのスミレは、春の花のあと夏の間もわりと大きな葉を広げ、「閉鎖花」という花びらを持たない花をつけ続けるからです。

春の妖精にも例えられる「スプリング・エフェメラル」ですが、絶滅危惧植物となっているものも多いのです。採集して庭に植えた

りしないで、咲いている場所で楽しみましょう。また、写真を撮るときでも、近づきすぎて土を踏み固めないようにしましょう。

光が差し込む明るい落葉樹の森は、春植物の貴重なすみかです。草刈りや野焼きなどの管理がおこなわれる草原もそう。新緑の森や草原の風景とともに、これからはますます季節を感じさせる存在であってほしいですね。

